



With AFRICA

Sophia Africa Weeks Project 2024
Vol.4

上智大学 Sophia University

もくじ

- ❖ アフリカWeeks 企画紹介 _____ 3
- ❖ This is 等身大のアフリカ _____ 4
- ❖ AFRICA Q&A _____ 6
- ❖ アフリカの学生にインタビュー _____ 7
- ❖ 上智大学でアフリカを体験！
＜アフリカ関連授業・プログラム・協定校＞ _____ 8
- ❖ 上智大学実践型プログラム「アフリカに学ぶ」 _____ 9
- ❖ 学生とアフリカ ＜ボランティアとインターン編＞ _____ 10
- ❖ 読者のみなさんへ／参考文献 _____ 11
- ❖ 編集後記・SNS _____ 12



アフリカWeeksのマスコット
キャラクター「ハドゥ」だよ！
ハウサ語で「つなぐ」という意味なんだ！
よろしくね～

アフリカWeeks企画紹介

四谷キャンパス開催イベント

上智大学アフリカ研究紹介 5月13日（月）19:00~21:00 オンライン

上智大学で行われているアフリカ地域についての研究について知るチャンス。本講演では、上智大学で研究をされている先生、またイエズス会客員教授をお招きし、社会経済や地域研究にいたるまで幅広く知ることができます。

フランス語を活かしてアフリカで働く 5月15日（水）19:10~20:50 対面

アフリカに関心を持つ高校生、大学生を主な対象として、フランス語圏アフリカ地域で働いた方の体験談を紹介することにより共通言語としてのフランス語の活用の可能性を追求。将来のアフリカへの就業のきっかけを創出することを目的としています。

アフリカの口承文学と現代 5月21日（火）17:25~19:05 対面

植民地時代以前からアフリカの人々の暮らしと心に根づいていた口承文学。現在残るその伝統を、今日のアフリカの社会や文化のなかに探っていきます。

2024 アフリカ・デー記念講演会 5月24日（金）15:30~17:00 対面

アフリカ連合創設日を記念し、在京アフリカ外交団によって開催されるアフリカ・デーの一環とした記念講演会です。アフリカ諸国の大使による基調講演、大使・外交官と直接議論する機会があります。アフリカ情勢について知る窓口に。

AFRI CONVERSE 2024 in Sophia 5月27日（月）19:00~20:30

ハイフレックス

国際協力機構（JICA）と国連開発計画（UNDP）との共催で、アフリカとの未来を考えるイベント“AFRI CONVERSE”を開催。アフリカへの関心や現地との経験を持つ若者と、アフリカ地域出身の若者がアフリカの持つ可能性などについて議論します。

変わるタンザニアビジネスと パートナーシップ

5月28日（火）18:00~19:30
ハイフレックス

東アフリカ最大の経済圏への成長を視野に順調な成長を続けるタンザニアの経済の現状と見通しやビジネス・投資機会についてタンザニア投資センター長官からお話を伺います。さらに、国連開発計画（UNDP）タンザニア常駐代表の小松原茂樹氏からもUNDPの活動についてお話を伺います。

アフリカの人々と場所

5月14日（火）～ 5月28日（火）
6月4日（火）～ 6月26日（水）

写真展

世界銀行に勤める農業エコノミスト、ドルテ・ヴェルナー氏の写真展を開催。アフリカのもつ様々な顔を知ることができます。食糧問題やジェンダー問題といった幅広い問題について考える機会に。5月は2号館にてパネル、6月は図書館にて現物の写真展示を行います。

大阪サテライトキャンパス 開催イベント

プレゼントリが繋ぐ友愛の文化 5月19日（日）13:00~15:15

対面

笑いの文化を抜きにして大阪を語ることができないように、アフリカ・コートジボワールにも緊張や対立をプレゼントリ（冗談）によって緩和する文化があります。本シンポジウムでは、民族間の対立や紛争を乗り越えるために「プレゼントリ」がどのように発達してきたのか、そして、さまざまな共同体が織りなす社会基盤となってきたかについて、コートジボワールの歴史を交えながら紹介します。

This is 等身大のアフリカ

～アフリカを知る4つの数字～

54

アフリカは54か国で構成されています。ちなみに、上智大学にはアフリカの18か国から学生が来ています。

3037万

アフリカの面積は3037万km²で、アメリカ、ヨーロッパ、中国、インド、メキシコ、日本がすっぽり入る広さです。

2000

アフリカには2000以上の言語があるとされています。アラビア語、元宗主国の言語、数えきれないほどの民族語など多様です。

3.8

2022年のアフリカのGDP成長率は3.8%です。（世界平均3.4%）COVID-19や気候変動等により成長鈍化があったため今後加速する見込みです。

～編集者のちょびっとコラム～

タジン鍋

とんがり帽子のような蓋がキュートで印象的な「タジン鍋」。ご存じの方も多いかもしれません。タジンとはモロッコ発祥の料理。数年前に日本で流行ったモロッコ製のタジンは材料の旨味や栄養素を逃がさず、重い蓋の中にしっかり閉じ込めて出来上がるいわゆる蒸し料理のこと。旬の野菜や鶏肉の旨味だけで作られたタジン鍋はとってもヘルシー。モロッコと言えば、サハラ砂漠が有名ですが、そんな過酷な環境下で生まれたほぼ無水料理！そしてなんといっても調理が楽。我が家では夜ご飯のメニューに悩むと、すぐ「タジン鍋にしちゃう？」となることも(笑)。鶏肉を中心に置いて、それを囲むように野菜をピラミッド上に盛っていく。蓋をして放置で完成。クミンなどのスパイスを忘れずに！見た目も可愛くて、そのまま食卓に置いてよし！本当におすすめです！



アフリカ布

アフリカ好きに愛されるアフリカ布製品。カラフルで国や地域によって多様な柄が魅力ですね。そんなアフリカ布は現地の人々からも大人気！アフリカに旅行してみると、いたるところでアフリカ布を取り入れた素敵な装いの人々を見かけます。また、好きな布を選んで仕立て屋さん好きな形に仕立ててもらえるのも一般的です。筆者もコートジボワールに渡航した際に仕立ててもらいましたが、どんな形でもイメージ通りに仕上げる技術力、作業のスピード感に驚きました。アフリカを訪れた際にはぜひ試してみてください！最近では日本でもアフリカ布のポーチなどの製品を扱うお店があります。皆さんも日常にアフリカ布を取り入れ、アフリカに想いを馳せてみませんか？



～アフリカ渡航者が見る等身大のアフリカを写真で紹介～



①3日間の旅行で見た、等身大のチュニジア

フランス語とアラビア語の看板が入り混じるチュニジアは想像以上にリゾート地としての一面を持っています。旅行では美しいモザイク装飾が見られるバルド国立博物館を訪れました。2015年にこの場所で乱射事件が起こり、日本人を含め多くの方が犠牲になりました。その2年後にこの博物館に行きましたが、とても静かで、厳かな雰囲気包まれていたのが印象的でした。

②1年半の居住で見た、等身大のセネガル

セネガルの首都ダカールでは、毎日黄金色の夕日が街と大西洋に沈んでいきます。首都からの夕日も綺麗ですが、シヌ＝サルームという場所では特別な景色を見ることができます。一面、川とマングローブだけが広がり、遮るものは何もありません。そこに沈む夕日や満点の星空は、写真を撮っていないものの、今も心に残り続けています。ぜひ皆さんにも実際に見てもらいたい光景です。

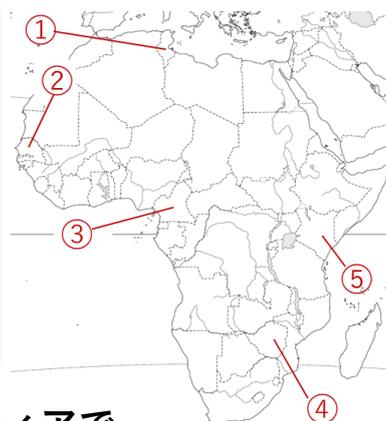


③2年間の居住で見た、等身大のカメルーン

カメルーンは、多種多様な自然環境に恵まれた国で緑が豊かなので、木材の輸出が盛んです。カメルーンにいた時はアフリカンカップの度にサッカーが盛り上がっていたので、テレビを観るのが好きでした。

④学生団体の研修3週間で見た、等身大のジンバブエ

スポーツを通して子供たちの支援をする団体YASDに郊外の学校に連れて行ってもらったときに子供たちと交流している写真です。最初は受け入れてもらえるか心配でしたが子供たちが明るく歓迎してくれて一緒に遊びました。



⑤2週間の高校生のボランティアで見た、等身大のケニア

滞在先の蚊帳付きベッド。私はケニアで生態系保護のボランティアに参加し、2週間ほどケニアのナクルにある自然環境保護区で過ごしました。夜はマラリアを媒介する蚊が出てくるので、寝る時には蚊帳が必須です。

AFRICA Q&A

本誌のテーマは
「等身大のアフリカ」です。
そのアフリカに惹かれる
「等身大の大学生」の姿、
そこから見える
「アフリカ」を質問形式で紹介します。

Q1

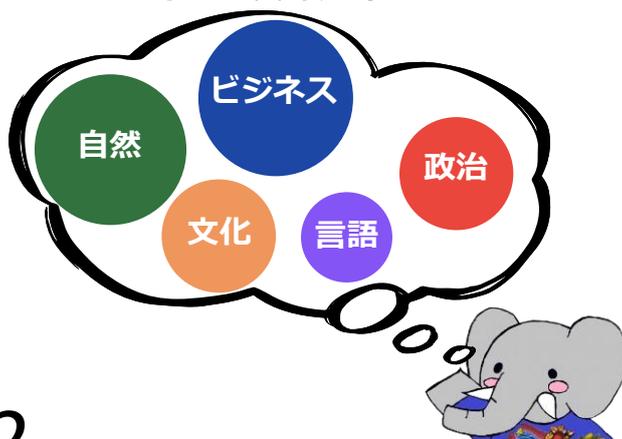
なぜアフリカなのか？

多様な文化、自然環境、
国家背景、潜在力に惹かれている

「環境問題に関心があり、アフリカの文化や自然環境に
気候変化がどのような影響を与えているのか興味を持っ
ています。」（外国語学部英語学科2年）

「アフリカ諸国の多様な民族から生まれる経済・政治・
開発学に惹かれてアフリカに興味を持ちました。」
（経済学部経済学科2年）

アフリカWeeks学生実行委員に聞いた
学生の興味分野



Q2

アフリカのポテンシャルとは？

爆発的な人口増加、中位年齢19.7歳、
世界経済の鍵を握る存在

大学でアフリカを学ぶとき、私たちがよく聞く言葉が「ア
フリカのポテンシャル」です。

国連は2050年までに世界人口の4分の1をアフリカ大陸の
人々が占めるだろうと予測しています。また、2020年時点で
アフリカの中位年齢は19.7歳であり、日本が48.4歳であるこ
とと比較してその圧倒的な若さがうかがえます。

一般に生産年齢人口と経済のピークはリンクすると言われ
ており、先進国や中国・インドの後にピークを迎えるアフリ
カは世界経済の主要地域になる可能性があります。

Africa

Japan

中位年齢

19.7

中位年齢

48.4

中位年齢：人口を低年齢から順に並べちょうど真ん中になる人の年齢

Q3

アフリカの多様性って？

アフリカは日本の80倍の面積
多種多様な文化を持つ地域である

アフリカを語るに外せないことの1つに、“多様性”とい
うキーワードがあります。

その多様性を表すものとして食文化についてみると、主
食だけをとってもウガリ、フフ、米、クスクス、クワンガ、
トウモロコシ、パンなど様々です。

アフリカという地域を見ると、“1つで括ることができ
ない”点が大切なポイントであり、私たちの尽きない探究
心の根源でもあると感じています。

北西部

→クスクス

※クスクス
デュラム小麦の
粗挽粉から作る粉

北東部

→ウガリ

※ウガリ
穀物の粉を湯で
練り上げたもの

西部

→フフ・パン・米

※フフ
イモ類を粉砕し団子状に丸め
たふわっとした蒸しパンのよ
うなもの

中央部

→クワンガ

※クワンガ
練ったキャッサバ粉を
バナナの葉などで
包み蒸したのもの

南部

→トウモロコシ

マダガスカル

→米

アフリカの学生にインタビュー

アメリカの大学で学ぶ学生：Sister Elizabethさん（ウガンダ）



家族構成は？：7人兄妹の末っ子で、兄が2人と姉が4人 **座右の銘は？**：“No Time Wasted”

大学と専攻は？：アメリカにあるSeattle Universityで宗教学を専攻しています。**どんな学生生活？**：毎日学校に行って授業を受け、大学のチューターに教わりながら課題を頑張っています。歌う事が好きなので、来年は聖歌隊に参加します。**将来の夢は？**：私はクリスチャンなので、もっと神様の言葉について見識を深めたいと思っています。将来は、宗教学の教授になりたいです。**故郷の好きなおところは？**：私の故郷はウガンダ西部のホイマという街です。私が大好きなティラピアという魚の産地です。

アフリカで学ぶ学生：Stéphanieさん（コートジボワール）



大学と専攻は？：CERAP*でマーケティングを勉強しています。直前に決めた専攻でしたが、学べば学ぶほど好きになりました。**座右の銘は？**：“Be your better self”

どんな学生生活？：学校に行って授業を受けて、友達とお昼ご飯を食べて、勉強しています。特別刺激なことはなく、日本のみなさんと似た大学生活だと思います。**将来の夢は？**：あります！ですが説明が難しいので、また別の機会にお話ししますね。**故郷の好きなおところは？**：ずっとコートジボワールの都市アビジャンに住んでいます。家の近くのカフェがお気に入り、よくそこで友達とお喋りをしたり、ゲームをしたりしています。そこのタピオカとジュースは最高です。**国のオススメスポットは？**：絶対に食べ物がおすすめです。私の国の食べ物は多様性に富んでいて、愛を伝える方法でもあります。綺麗なスポットもたくさんあって、人もみんな面白く外交的です。なので、コートジボワールに来たら、必ず歓迎されていると感じることができるはずです。**読者にメッセージ**：コートジボワールには豊かな文化と歴史があり、そのおかげで私たちは自分の国を誇りに思うことができます。祖母が私たちに両親や伝説について教えてくれた夜のことは忘れられません。そして、人々はみんな寛大で、いつも最高の笑顔を見せてくれます。私は皆さんのことを知らないけれど、コートジボワールに来てくれたら、私の隣にはいつでも皆さんの居場所があることを知ってください。 *Centre de Recherche et d' Action pour la Paix

上智大学で学ぶ学生：Faraiさん（ジンバブエ）



家族構成は？：両親、妹と弟 **座右の銘は？**：“Blessed to Be a Blessing” **どんな学生生活？**：今学期は7授業で14単位分履修していて、月曜から木曜まで四ツ谷に通っています。上智は様々なバックグラウンドを持つ学生が多く、新しい文化に触れる事ができるのが楽しいです。KASA Sustainability というクラブにも所属していて、今は富士山へのハイキングを計画中です。**大学と専攻は？**：2023年の4月に日本に来て今は上智大学の大学院で環境学を専攻しています。ジンバブエの汚染問題が適切に対処されていないと気づき、環境学を学びたいと思うようになりました。イギリスの大学でマーケティングを勉強する選択もありましたが、日本政府から奨学金をもらえることになり上智大学を選びました。**将来の夢は？**：環境に関する組織や企業で働きたいと考えています。日本で働きたい気持ちもありますが日本語のハードルが高いため、英語が通じるオーストラリア、カナダ、ニュージーランドも視野に入れています！そして、日本に来る前にジンバブエでは起業もしているので、その事業にも力を入れたいです。**故郷の好きなおところは？**：私はジンバブエの首都ハラレで育ちました。大好きな音楽（特にジャズ）のイベントがたくさんあるところが気に入っています。**国のオススメスポットは？**：象やライオンの生息地やワンゲ国立公園に行くと動物を間近に感じる事ができて楽しいと思います。

上智大学でアフリカを体験！ アフリカ関連授業・プログラム・協定校

～2024年度通常授業～

赤：春学期 青：秋学期

【全学共通】

(木2) グローバル社会の中のアフリカ
(火4) アフリカにおける開発援助とビジネス展開

【総合グローバル学部開講】

(水1) アフリカ社会論
(水6) フランス語圏アフリカの社会と経済
(木1) POLITICS AND SOCIETY IN AFRICA
(金2) 現代アフリカ研究
(金3) アフリカ国際協力概論
(火1) LIFE AND CULTURE IN AFRICA
(火3) アフリカ政治論
(木3) アフリカ・ジェンダー論
(金3) INTRODUCTION TO AREA STUDIES

【経済学部】

(火3) AFRICAN ECONOMY

【外国語学部】

(水6) フランス語圏アフリカの社会と経済
(木4) ポルトガル語圏アフリカ史
(火5) 北アフリカ社会開発論

受講者の声：

実際に、アフリカをパートナーとしてビジネスを行っている企業の方や、JICA職員の方などからお話を伺うことができました。アフリカンビジネスに興味のある方におすすめです。

受講者の声：

人類学的な視点から、カメルーンなどを事例に、現地の人々の暮らしなどよりローカル部分を理解することができました。

受講者の声：

多様な視点から、「アフリカ」に対する固定概念について捉え直す授業です。まさに、常識が覆される授業です。世界の事象について多角的、批判的に考える力を身につけたい方にぜひおすすめしたい授業です。

広範囲に渡る学部学科の授業で、アフリカ関連の授業が開講されているよ～

ぜひ、上智大生のみなさんは、参考にしてみてね！
※毎年同じ授業が開講されるとは限らないから、気をつけてね！



～夏休み集中講義～

□ アフリカに学ぶ

事前研修、約2週間のアフリカ現地での研修、事後研修を通して、問いを深めていきます。内容の深いプログラムです。（詳しくは次のページを参照）

□ STUDY ABROAD (SOAS UNIVERSITY OF LONDON)

ロンドン大学(SOAS)は、アフリカ研究における有名な研究機関です。アフリカの文化や、言語、歴史、経済、社会などについて幅広く学ぶことができます。ここでの学びは海外の視点からアフリカについて学ぶことができるため、新たな発見になること間違いなしです。

～インターンシップ科目（短期）～

春学期（8-9月）秋学期（2-3月）

アフリカ開発銀行（AfDB）や国際協力機構（JICA）の国内/国外インターンの科目が開講されています。これまでもガーナ共和国やブルキナファソ、マラウイ共和国で、上智大生を受け入れており、幅広いアフリカ各国の在外公館でインターンシップをするチャンスがあります。

上智大学では、普段の授業以外にも、長期休暇に留学やインターンシップでアフリカと関わることができるような、豊富な科目が用意されています。

～長期留学～

上智大学では、アフリカ大陸だけで、17の大学と協定を結んでおり、中には長期留学が可能な協定もあります。交換留学でアフリカを選んでみるのも、新しい発見がありそうですね。

上智大学実践型プログラム「アフリカに学ぶ」

アフリカ諸国に2週間程度滞在し、現地大学の講義受講や国際協力機関の活動見学、地域に根付く市民活動への参加などにより、社会経済が大きく変動するアフリカの「現在」を体験的・実践的に学ぶことを目的としたプログラム。

平田紫音
(教育学科)

コートジボワールの方々は、見るだけで気分が明るくなるような色鮮やかな洋服を着ていてとってもオシャレな印象です。そして、参加したメンバーも実際にオーダーメイドで世界に一つだけの洋服を作っていたので、良い思い出になりました。



太田珠々
(地球環境法学科)
移動のバスから町並みを見ることがとても楽しかったです。私は普段、景観法や都市計画法を学んでいるので、コートジボワールの町並みにはどんな特徴があるのだろうと注目していました。コートジボワールの町並みは行政の介入がちぐはぐな感じがし、とても面白いものだなと思いました。

長澤里桜
(総合グローバル学科)

「平和とは何か」と何度も自分に問いかけ、そしてメンバーと議論を重ねたことが印象に残っています。そのなかで、平和を建造物という目にみえるかたちに残しているヤムスクロへの訪問は、大変貴重な思い出となりました。

沖和樹
(経済学科)

一番印象に残ったのは、アフリカ開発銀行への訪問です。私は、幼少期からインドやアメリカ等、複数の国に住んだ経験があり、開発援助に関心を持っていました。アフリカ開発銀行で働いている沢山の方の話を聞いて有意義な時間となりました。

学生団体紹介



□ 日本ルワンダ学生会議 (Japan-Rwanda Youth Cooperation) :
「相互理解」を活動理念にルワンダの大学生と学術・文化交流を行う学生団体

日本ルワンダ学生会議は日本とルワンダの両国を学生交流により繋ぐ団体で、2005年に発足し、2024年現在まで続いています。

活動内容としては、本会議 (ルワンダ人招致事業・日本人のルワンダ渡航) に加え、勉強会、講演会、交流イベントを行っております。活動可能頻度により運営メンバー・イベントメンバーの2つの関わり方を選ぶことができますが、是非運営メンバーとして私たちと共に団体を作り上げていきませんか? ご応募お待ちしております!

長澤里桜 (総合グローバル学科)

□ ASANTE PROJECT

ボランティアの形を学生目線にとらえ、ニーズを現地で感じ行動することで社会貢献活動をするというモットーのもと活動する学生団体。2016年創立、タンザニア渡航やワークショップなどを開催。現地では、文化や考えの違いで割り切れないことがあります。学生だからこそ常に子どもたち一人一人の笑顔を追求めた支援を行うことができ、やりがいを感じます。

渋谷大誠 (総合グローバル学科)



学生とアフリカ

<ボランティアとインターン編>



マダガスカル（ボランティア）
総合グローバル学部3年 八木紗良さん



◆ ボランティアに参加することになった経緯
高校1年生の時、大好きな自然を保護する活動に携わりたい、学校の募金活動を通して知った世界の国々をこの目で見たい！という思いでマダガスカルでのボランティアに参加しました。

◆ ボランティア自体の内容とボランティアを通じての学び・今後の展望は？
環境保護活動とコミュニティ奉仕活動を行い、自然保護への想いが強まると同時に、アフリカへの関心が芽生えました。渡航後、地域の里山保全ボランティア活動に携わり、現在は「アフリカの人々と自然の共生」に貢献するべく、大学でアフリカ地域研究を専攻しています！

ケニア（インターン）
津田塾大学3年 小谷菜奈子さん



◆ ボランティアに参加することになった経緯
趣味で始めたスワヒリ語をきっかけにアフリカにハマリ、ケニアを拠点とするコンサル会社に「雇ってください！」と直談判。幸運にも採用され3か月アフリカへ。

◆ ボランティア自体の内容とボランティアを通じての学び・今後の展望は？
業務は、スタディツアー実施、ゲストハウス運営、SNS運用等多岐にわたり、アフリカの成長速度を実感しました。頻繁に起きる停電の合間には、決まってケニア人スタッフがカードゲームやスワヒリ語のレッスンを提案してくれ、いつしか停電が待ち遠しくなっていました（笑）。



<アフリカへのボランティア、企業へのインターンの情報>

□ NGOやボランティア組織のウェブサイト

多くのNGOやボランティア組織は、自らのウェブサイトではボランティアやインターンの募集情報を掲載しています。例えば、国際的な組織であれば国際連合や国際赤十字社、国際ボランティア会などがあります。また、地域団体や現地のNGOも積極的にボランティアを募集しています。

□ ボランティア・インターン紹介サービス

専門のボランティアやインターンシップ紹介サービスを利用する方法もあります。例えば、Go OverseasやIdealist、Projects Abroad、Volunteer Worldなどのウェブサイトでは、世界中のボランティアやインターンシップのプログラムを探ることができます。地域や活動内容、期間などから検索が可能です。

□ 大学や教育機関のプログラム

多くの大学や教育機関が、アフリカ地域でのボランティアやインターンシッププログラムを提供しています。これらのプログラムには学生向けのものもありますが、一般向けのプログラムも存在します。

□ ソーシャルメディアやオンラインコミュニティ

FacebookやLinkedInなどのソーシャルメディア、あるいはオンラインのコミュニティやフォーラムに参加することで、現地のボランティア活動やインターンシップに関する情報を得ることができます。特に、地域やテーマに特化したグループやコミュニティが役立ちますよ！

読者のみなさんへ

アフリカWeeks オリジナル雑誌「With Africa」をお手にとっていただきありがとうございます。2021年に始まり、今年で第4号となりました。

今回のテーマは「等身大のアフリカを知ろう！」。

渡航経験があるメンバーやアフリカについて調べた編集メンバーから、読者の皆さんに伝えたいアフリカの側面がたくさんあります。

企画段階では、「自分の周りの人でアフリカに対する印象が全く違う」、「アフリカに渡航する前と後でイメージが180度変わった」という声も。日本で得られる情報には限りがありますが、アフリカのリアルをもっと多くの人にお伝えしたいという想いで編集しました。

上智大学とアフリカの関わりについてもたっぷりお届けするので、日本にいながらも「等身大のアフリカ」の姿を知っていただくきっかけになれば幸いです。

そして、本誌作成にあたりご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。

参考文献

【AFRICA Q&A】

- ・ 椿進 (2021) 「超加速経済アフリカ」 東洋経済新報社
- 【This is 等身大のアフリカ】～アフリカを知る4つの数字～
- ・ BE FORWARD (2023) 「2000以上の言語が話されるアフリカの主要言語は？最も話されている言語ランキング」 (2024/5/10参照)
<https://africabusiness.beforward.jp/know-how-most-spoken-languages-africa/>
- ・ 外務省, 2024, 「地域別インデックス」 (2024/5/10参照)
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/africa.html>
- ・ 学校法人上智学院, 2023, 「2023年度 上智学院統計資料」 (2024/5/10参照)
<https://www.sophia-sc.jp/info/data.html>





編集後記・SNS

●古本可南（総合グローバル学科・4年）

日本人が持ちがちな「海外＝欧米」という価値観を変えたくて、留学先からアフリカWeeksに参加しました。まだ知らないだけで、あなたの「好き」はアフリカにあるかもしれません！ぜひ一歩、アフリカに近づいてもらえたら嬉しいです。

●八木紗良（総合グローバル学科・3年）

アフリカと出会う人の数だけ、アフリカとのかかわり方、アフリカの見え方があると思います。はじめは勇気がいるかもしれませんが、きっと素敵な出会いにあふれているはずですよ！自分の感性を大切に、一緒にアフリカの沼に飛び込んでみませんか？

●太田珠々（地球環境法学科・3年）

アフリカと一言と言っても多様な背景・文化があり、学んでも学んでも知り尽くせない深さを今回の執筆で実感しました。ご紹介できるアフリカは一部であり、ぜひこれをきっかけに各々の価値観からアフリカに学び、共有できる仲間になれたら嬉しいです。

●榊原毬花（経営学科・2年）

自身がこれまでアフリカについてあまり接点が無かったこともあり、新鮮な気持ちでひとつひとつの情報に触れることができました。アフリカというと一部のニュースや、社会問題を思い浮かべがちですが、実際の生活や雰囲気を感じることでできる記事になったのではないかと思います。自身もまだまだ知らないことだらけなので少しずつ学んでいきたいです。

●松尾凧倅（新聞学科・3年）

エネルギーで色んな可能性に満ちたアフリカ。よりよい協力関係を結び、「発展途上国」ではなく「共に成長できる国」として、私たちの意識レベルから捉えることができるようになるとういなと願っています。

●朝川彩名（総合グローバル学科・3年）

「好きだな」や「気になるな」という感情を出発点に、みなさんの「アフリカ」に対する興味や関心が広がってほしいという思いを込めて雑誌を作成していました。この雑誌をきっかけに、ぜひ、アフリカ関連の授業やイベント、インターン、留学などに参加されてみてください！

●谷口萌絵（フランス文学学科・3年）

「等身大のアフリカ」をテーマに雑誌企画に携わる中で、「等身大」ってなんだろう？と改めて考えさせられる経験になりました！アフリカのネガティブな面も無視してはいけなけれど、それと同じくらいポジティブな面を知っていただければ良いなと感じています！

●齊藤舞（国際関係法学科・3年）

「アフリカ」と聞くと、どこか自分とは関係ない遠い存在のように感じますが、実は日本と類似した点が多くある多様性に富む場所です。自分の目でアフリカに行き行って感じてください！

●植田瑳弥（英語学科・2年）

雑誌企画をはじめ、アフリカWeeksに携わる人全員が異なる視点からアフリカに興味を持ち、その魅力を精一杯伝えようとする姿に私自身大変刺激をもらいました。アフリカと一括りにしても深く掘れば掘るほど多様な価値観や文化があり、本当に多くの学びを得ることができる地域だと思っています！

SNSはこちら

- ❖ Instagram @sophiaafricaweeks
- ❖ X @AfricaweekS

